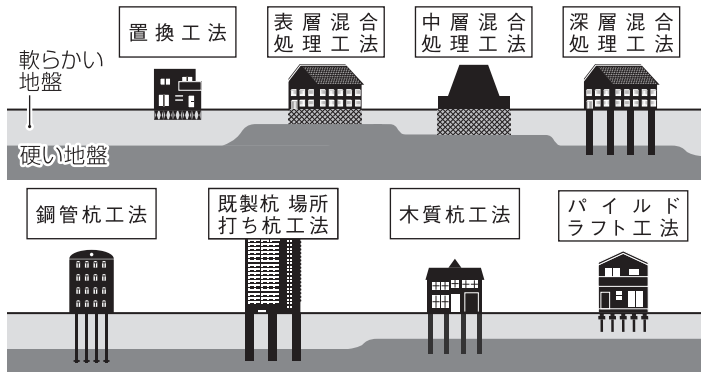


岩水開発

岡山県南部に広がる干拓地や、干拓地でなくとも池、沼、谷、田



などを埋め立てたり、土を盛った人工地盤では、建物や構造物の傾斜やひび割れなど、さまざまなトラブルの原因となる地盤沈下、液状化が起こる恐れがあります。

中四国最大の地盤の専門技術会社である岩水開発株式会社（岡山市南区福吉町）では、年間約9千件の地盤調査と、同約4600件の地盤改良工事によって得られた長年の実績データに基づき、地盤沈下や液状化による被害の低減のためのさまざまな解決策を提案・実施しています。

【置換工法・スーパージオ工法】
表土を樹脂製軽量ブロックに置き換え、地盤が受ける重量負担を軽減して建物の沈下を防ぐ工法です。液状化対策工法・減震工法としても効果を発揮します。

軟弱地盤対策技術で貢献

【表層混合処理工法】
土にセメントを混合して攪拌すると、土の粒子同士の結合力が増し大きな強度が得られます。軟弱地盤の深さが地表2メートル以内の場合、板状の地盤改良体によって建物を支える工法です。

【中層混合処理工法・WILL工法】
表層混合処理工法と深層混合処理工法の中間に位置し、地下2メートルから10メートル程度で適用されます。

【深層混合処理工法・スリーエスG工法】
セメント改良工法の一つで、柱状の地盤改良体を築造する方法。同社が独自開発した技術で、工法の技術性能について厳しい審査を経て公的な認証を受けています。

従来手法に比べさらに高品質の施工が可能。全国を対象エリアとし1万件を超える施工実績があり、類似工法の中で全国トップクラスの件数です。

自社開発工法で公的認証取得

【鋼管杭工法・アルファフォースパイプ工法】
鋼管を地中に打設し、建物を支える工法です。狭い土地などさまざまな現場条件に対応しやすいのが特徴です。

【既製杭 場所打ち杭工法】
コンクリート柱を地中に打設するか、地盤を掘削して掘削孔に鉄筋コンクリートを築造し、建物を支える工法です。しばしば高層建築物に用いられます。

【木質杭工法・環境パイル工法】
特殊な加工を施して耐久性を向上させた木材を地中に打設し、建物を支える工法です。鉄やコンクリートに替わる材料として注目されています。

【パイルドRAFT工法・RES-IP工法】
細径のパイプを弱い地盤に貫入し、地盤とパイプの複合作用で地盤を強くして沈下を防ぐ工法です。狭い土地でも対応可能です。